



川口芝富士小

川口市芝富士町の市立芝富士小学校（加藤智美校長、児童数295人）で、3年生の子どもたち（1学級35人）が校庭のモモの実を収穫した。一人4個ずつ、約140個を収穫した。その場では食べないで家庭に持つて帰ることにした。「うちでみんなで食べるんだ」と、子どもたちはうれしそうだった。（岸鉄夫）

(岸鉄夫)

校庭でモモを収穫。「早く食べたい」と子どもたち=川口市立芝富士小学校

「うちでみんなで食べるんだ」

◇ 加藤智美校長55は「式田さんとグリーンボランティアの人たちが子どもたちを指導してくれるの 大変だった。元気に育てよ」と話していた。式田さんは見守つていた。式田さんが若木を植えたが、1本が枯れた。順調に育つているのは1本だけだ。

木の上にはまだ大きな実が數十個残つていた。この日、参加できなかつた子どもたちのために残したといふ。式田さんが同小支援を始めたきっかけは、18年前に地域の知人に頼まれてゴーヤーの植え方を同小の子らに指導したことだつた。そ

学校近くに住む元会社役の時に学校の中の煙が荒れ員の式田勤さん(90)と、式田さんの呼びかけに応じて始まつた「グリーンボランティア」のメンバー5人が指導した。全員が芝富士町の住民。

ほんのり赤みがついた実は、モモのいい香りがした。ぐためにモモの実に袋がけ「早く食べたいね」と3年生の長谷川舞さん。勝見心陽(こはる)さんは、「うちでみんなで食べるんだ。1歳の妹も一緒に食べるんだよ」。竹井悠馬さんは「どちらのためにいろいろやつてくれた。式田さんに、ありがとうと言いたい」と話した。

式田さんは房総半島の千葉県御宿出身。子ども時代に父母の農業を手伝つた経験が生きた。その頃すでに校庭にはモモの木があつた。式田さんが害虫から防ぐためにモモの実に袋がけをする技術を子ども方に指導している。今年も5月に3年生児童と一緒に袋がけをした。この技術は式田さんも初めてなので「インターネットで勉強した」。かつては日本のモモがある、子どもらの収穫では200個ぐらいになつた。しかし、現在は木が3本が枯

いる。